

1. 学会長より

2020年4月18日

日本シミュレーション&ゲーミング学会員諸賢

NPO 法人日本シミュレーション&ゲーミング学会理事会

学会長 鐘ヶ江秀彦

日本シミュレーション&ゲーミング学会 2020年春期学術大会の開催中止について

未曾有の新型コロナウイルスの感染が拡大する中、私ども日本シミュレーション&ゲーミング学会理事会では、2020年5月30日～31日に開催される予定であった春期学術大会につきまして、三密にならない状況とともにソーシャル・ディスタンスを大会にて保てるかなどのリスクとともにオンラインでの予定日での開催についても学術委員会ならびに理事会にて開催の可否について検討をまいりました。しかし、政府による緊急事態宣言、七都府県の緊急事態措置の指定、その後の感染拡大を受けてこの措置も全国に拡大しました。そして当面5月6日までの緊急事態措置が延長される可能性が高まりつつある状況を鑑みて、大変残念ながら、実空間での対面による春期学術大会開催を断念せざるを得ないとの結論にいたりしました。

大会の開催中止により、感染症の拡大シミュレーションの題目についてお願いしていたシンポジウムの基調講演の倉橋先生、またパネルディスカッションのご登壇予定者の方々、ご発表、ご参加を予定されていた会員諸賢、大会開催の準備をされてこられた方々には、多大なるご迷惑をおかけすることになり、大変申し訳ございません。会員諸賢にはご賢察の上、何卒ご理解賜われますようお願い申し上げます。

なお、NPO 法人法に基づく予定されていた総会につきましては、東京工業大学が現時点で入館が叶わない状況のため、議長役の会長ならびに決算報告などを行う運営委員長兼副会長、ならびに議事録や集票結果の報告を行う事務局長が三密にならない状況かつ2mのソーシャル・ディスタンス保てる対面形式で、総会成立に必要な三名の集まれる場所にて開催する予定です（現時点ではキャンパスプラザ京都、あるいは京都大学吉田キャンパスなどを想定していますが、緊急事態宣言が延長された場合はお知らせ申し上げます）。このような状況故、東京での総会開催とならないとともに、接触を八割減とする現行方針を鑑みて会員諸賢からの参加者も限られることが予想されるため、総会に参集する三名を除き、基本的に書面評決もしくは委任状をいただく会員諸賢ならびに理事については、オブザーバとしてオンラインでの視聴が可能となるように準備をすすめる予定です。総会のオンライン投票については、オンライン参加者の出欠確認や審議事項への票数のカウント方法に課題が残ることから、今回は特別に対面開催を行いつつも、遠隔を基本として総会の円滑

な進行のための対応としましたことにご理解を賜れば幸甚です。

Email や FAX の書面により皆様に可否についてご連絡を差し上げる手はずとなっていますので、総会成立のためにも、事前にご返信をよろしくお願い申し上げます。なお、質疑につきましてはオンラインにて事前に受け付ける予定です（後日、別途ご連絡）ので忌憚のないご質問やご意見を会員諸賢より賜われればと存じます。

なお、実空間における対面の学会発表に代わるオンラインでの発表機会など、各種の行事、委員会などについての今後の対応につきましては、ホームページ等で追って連絡をさせていただきます。

2. 編集委員会より

シミュレーション&ゲーミング学会誌（以下、JASAG 誌）は、年 2 号ずつ刊行することになっております。直近では、29 巻 2 号を 2020 年 1 月に刊行することができました。今年度は、30 巻 1 号を 6 月に、2 号を 12 月にお届けすることを目標に、編集・査読等の作業を鋭意進めているところです。

第 7 期に入って（2019 年 6 月）以降、計 10 編の一般論文を投稿していただきました。これとは別に、特集号白鳥令先生に特集エディタをお願いしている『社会問題に関する政策形成と評価のシミュレーション&ゲーミング』につきましても、3 編の投稿論文と 1 編の招待論文をいただきました。投稿数は学会の活力を示すものとして非常に重要な意味があります。引き続き、会員のみならずさまから多くの投稿をお待ちしております。

また、2019 年 6 月より、JASAG 誌を J-STAGE へ掲載しております。多いものでは月に 100 件以上のダウンロードが確認されている論文もあります。また、ヨーロッパを中心に遠く海外からのアクセスも相当数確認されております。みなさまにおかれましても、ぜひこちらへアクセスいただければと存じます。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jasag/-char/ja>

J-STAGE へは、新たに刊行されたものについては冊子体のお届けとほぼ同時に公開しております。

また、バックナンバーについては、新しいものからさかのぼって、月に 1 巻分のペースを目標に J-STAGE への掲載を進めております。J-STAGE への掲載には、単にスキャンした PDF ファイルを載せるだけというわけにはいかず、様々な形式に対応できること、また引用文献のリンク先確認など膨大な作業を要します。こちらにつきましては、時間がかかることをご理解いただければと存じます。

その上、昨今の社会情勢により、停止してはいないものの、稼働状況が下がっており、これまで以上に時間を要する見通しとなっております。今年度は 10 巻（20 号）分ほどのバックナンバーを掲載できればと計画しておりますが、不確実性が高い点につきましてご承知おきいただければ幸いです。

なお、新規刊行分につきましては、今年度も通常通り 2 号分を刊行できる予定となっております。論文の査読・審議や校正のやりとりなどは元々メールベースで行っていることもあり、影響は

最小限に留められております。

重ねて、みなさまからの多くの投稿をお待ちしております。

学会誌編集委員長 大沼進

3. 広報委員会より

今号は、今年度の春期全国大会中止の決定について速報することを目的として、本来であれば大会案内の広報の時期に、会長からのメッセージを中心にお届けしました。広報委員会では、ご承知のようにメールニュースを随時発行して会員の皆さまにお届けしております。本学会の活動に関連することで会員の方々の利益につながるような情報を広報委員会へお寄せください。対面的なコミュニケーションに制限がある今こそ、オンラインによる活動を推進していけたらと思います。

広報委員長 杉浦淳吉